

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

**事業所名**

やすらぎホーム金光

日付 平成 20年 5月 26日  
特定非営利活動法人

**評価機関名** ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

**1. 評価結果の概要**

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)

平成15年5月に開設され、5年近い年月が経過し、その間4回の外部評価をさせて頂いた。外部評価機関の報告書から、このグループホームが何を目標として運営に当たってきたかを少し辿ってみた。このホームの理念というか特に重点目標にあげたことを列記してみる。利用者とのコミュニケーションによって、その人の気持ちや希望等を察して、それを出来るだけ実現する。(やさしいトーンでの声かけと傾聴、やさしい眼差しと観察力)、利用者本位の生活をする(その人らしく楽しく過ごす、その人のしたい事の実現)、利用者の能力を引き出せる生活をする(持っている能力を十分に引き出しお互いに必要な存在になる。自立できる支援、それぞれのペースを持つ)この3つが一貫してケアに活かしてきた事だと思う。

これらのことは、認知症ケアにとって最も大切な事で、現在のホームを見てもしっかり根付いていると感じた。

私は人間として生きる機能を次のように考えている。生きる機能 食べる、排泄する、動く、人間として生きる機能 会話をする、他人との関係を保つ、他人に役立つ、自分らしく生きる機能 自分の希望や要望を自由に云える、自分のしたい事をする事が出来る、自分を磨く事が出来る。この3つの機能は脳の高次元の働きに向かっており、人間として、それぞれにあげた9つの行動が可能であれば、どんな生活にも波及していき、幸せな生活ができる源だと考えている。これらは、すべての人間に共通であり、例え認知症になっても同じだと思っている。

このホームで、5年間に利用者に対しケアしてきた上記の重要事項は、私の描いた人間の生活機能に合致する所であり、このホームの日常のケアの目指す所に敬意を表わしておきたい。利用者を出来るだけ歩くようにしてあげたいと、抱きかかえるように足を動かせるようにしている。ゆっくりでも自分で食べられるよう見守り、声掛けしている。自分の好きな手芸、工芸をできるだけ作り続けていく等色々実践している。利用者に向き合っ、その人の気持ちを知ろうとする努力が、どんな症状の人に対しても方法を変えてしていることでも理解できる。

これらのことを、介護計画作成や実践したモニタリングにも活かし、それぞれの利用者を実施してきた事を記録に残し、その人の人生物語として残せていければ素晴らしいことだろうと考えている。

**特に改善の余地があると思われる点**

このホームとしての課題だった地域との関わりについて、ようやく運営推進会議の開催が軌道に乗ってきたことは大変嬉しい事である。代表者や職員の皆さんの努力で、地域の皆さんとの心が開けたことで、地域の人々から色々な意見が出て、紹介を受けたり、ホームの催しにも来てくれたりする事で、これからの発展が楽しみである。今後期待している。

## 2. 評価結果(詳細)

### I 運営理念

| 番号   | 項目   | できている | 要改善 |
|------|--|-------|-----|
| 1    | 理念の具体化、実現及び共有  |       |     |
| 記述項目 | グループホームとしてめざしているものは何か  |       |     |
| 記述回答 | <p>1、自主評価について…：会社の理念とは別に、グループホームの特長となる具体的な目標を作って、日常のケアやサービス提供の中で具現化していけるようになった。家族や地域に対しても、ホームの思いを積極的に伝えていけると更に良いと考える。</p> <p>2、全体的に見て…：「辛抱強く、やさしい眼差しと、観察力を持つ」「よく話を聞いて、その人のしたい事を実現していこう。笑顔一杯のホームにしたい」それぞれのユニットで聞いた目標であるが、両方とも意とするところは同じである。まず朝にホームに入ったら「おはよう！」の元気な挨拶から、利用者と職員も笑顔が一杯のホームを目指していると管理者は言っていた。現場での実践を大切にしたい取り組みは確実な効果をあげている。</p> |       |     |

### II 生活空間づくり

| 番号   | 項目   | できている | 要改善 |
|------|--|-------|-----|
| 2    | 家庭的な共用空間作り   |       |     |
| 3    | 入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり  |       |     |
| 4    | 建物の外回りや空間の活用   |       |     |
| 5    | 場所間違い等の防止策   |       |     |
| 記述項目 | 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か   |       |     |
| 記述回答 | <p>1、自主評価について…：生活空間を造っているハードな面と利用者と職員が生活している人の動線からくるソフトな面共に十分使いになしており、利用者の作品や生活ぶりを表わす写真等によって生活臭が漂っているのが、現状で十分である。</p> <p>2、全体的に見て…：「まあまあ皆さんお揃いで！」ハイテンションで1階の利用者が2階のユニットにやって来た。「よう来たなあ、一緒にテレビ見ようや」と住民がのんびり迎える。賑やかに1人で喋りながらその人は拒絶されていない事をちゃんと感じているので、表情は終始和やかだ。しばらくすると何となく1階ユニットへ帰って行った。1階には広いウッドデッキがあり、その前に庭や畑がある。2階の人も下へ降りて合同でお茶を飲んだり、食事をしてお互いに交流している。</p> |       |     |

### III ケアサービス

| 番号 | 項目                        | できている | 要改善 |
|----|---------------------------|-------|-----|
| 6  | 介護計画への入居者・家族の意見の反映        |       |     |
| 7  | 個別の記録                     |       |     |
| 8  | 確実な申し送り・情報伝達              |       |     |
| 9  | チームケアのための会議               |       |     |
| 10 | 入居者一人ひとりの尊重               |       |     |
| 11 | 職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ |       |     |
| 12 | 入居者のペースの尊重                |       |     |
| 13 | 入居者の自己決定や希望の表出への支援        |       |     |
| 14 | 一人でできることへの配慮              |       |     |
| 15 | 入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫 |       |     |
| 16 | 食事を楽しむことのできる支援            |       |     |
| 17 | 排泄パターンに応じた個別の排泄支援         |       |     |

### III ケアサービス(つづき)

| 番号   | 項目   | できている | 要改善 |
|------|--|-------|-----|
| 18   | 排泄時の不安や羞恥心等への配慮  |       |     |
| 19   | 入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援  |       |     |
| 20   | プライドを大切にしたい整容の支援   |       |     |
| 21   | 安眠の支援  |       |     |
| 22   | 金銭管理と買い物の支援  |       |     |
| 23   | 認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保  |       |     |
| 24   | 身体機能の維持  |       |     |
| 25   | トラブルへの対応   |       |     |
| 26   | 口腔内の清潔保持   |       |     |
| 27   | 身体状態の変化や異常の早期発見・対応   |       |     |
| 28   | 服薬の支援  |       |     |
| 29   | ホームに閉じこもらない生活の支援   |       |     |
| 30   | 家族の訪問支援  |       |     |
| 記述項目 | 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か  |       |     |
| 記述回答 | <p>1、自主評価について…：利用者に対するケアはしっかりとした考えで提供されているので、現状のままで、一つひとつの項目について改良を重ねていけば良い。</p> <p>2、全体的に見て…：病院に入院していた時に、精神安定剤などで薬漬けになり、無表情で、食事も摂取できない、寝た切りの状態でホームに入所してきた人を、医師とも相談して、薬を抜き、介護職員の暖かいケアによって立上がり、歩こうとする意欲も出て、表情も豊かになった。尿が出にくくなっていた人を、2人対応でトイレ介助をして、1人で便器で排泄できるようになった。食べられなかった人が自分で完食出来るようになった等、ホームのケアによって人間機能を失っていた人が、人間回復した事例は多い。又、利用者との会話を優先し、出来るだけ利用者に関わって楽しく笑う事を大切にしている。ホームに来て、明るくなったと家族も喜んでいる。</p> |       |     |

### IV 運営体制

| 番号   | 項目  | できている | 要改善 |
|------|---|-------|-----|
| 31   | 責任者の協働と職員の意見の反映   |       |     |
| 32   | 災害対策  |       |     |
| 33   | 家族の意見や要望を引き出す働きかけ   |       |     |
| 34   | 家族への日常の様子に関する情報提供   |       |     |
| 35   | 運営推進会議を活かした取組   |       |     |
| 36   | 地域との連携と交流促進   |       |     |
| 37   | ホーム機能の地域への還元  |       |     |
| 記述項目 | サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。  |       |     |
| 記述回答 | <p>1、自主評価について…：地域の関係づくりが、ホームの関係者の努力によって地域の方々から理解してもらえ、運営推進会議の機会でも活発な交流ができるようになった。これから色々な方面に交流を深めていってほしい。</p> <p>2、全体的に見て…：ホームのたより「やまぼうし通信」を年に4回、50～60部ホームの若者グループで作成発行して、家族や近所の家、みわ病院、同業者等に配布している。写真満載で楽しく読める通信である。ホームの中にも、利用者の作った作品を掲示したり、ホームでの各シーズンの催しや生活ぶりの写真が満載で掲示してあり、利用者が楽しく生活している様子がよく分かる。家族も訪問した時にこれらを見たり、個人アルバムを見て、利用者が皆と楽しそうに生活している様子を見れば安心するだろう。ホーム全体も年々明るく楽しさがまわってきたと思う。</p> |       |     |